佳作

私の初めてのボランティア

福島県 福島市立福島第一小学校四年　片平 羽那乃

私は、十才になって、自分から初めてボランティアをしようと思いました。それは、ヘアドネーションです。私は生まれてから、ずっと髪の毛を長くのばしていて、だいたい太もものあたりまでの長さがありました。ある日、市立図書館で見つけた本にヘアドネーションの事が詳しく書かれていました。ヘアドネーションとは、病気の治りょうで髪がぬけてしまったり、生まれつき髪が生えなかったり、原因不明で髪がぬけてしまった方のために髪の毛を寄付することです。寄付する髪の毛も三十一センチ以上と決められていて、切った髪の毛は、ＮＰＯ法人のヘアドネーションの団体へ送られます。

私にとって髪を切るのは初めてのことで、少し勇気のいることでした。でも、私の読んでいた本には、たくさんの子どもたちが色々な思いでヘアドネーションを経験したと書いてあり、私の心は動き出しました。「まず、困っている人を助けてあげたい。それから、私の髪の毛は、生まれた時から大切に大切にお母さんがシャンプーをしたりブラッシングをして手入れをしてきてくれていたから、誰かのためにきっと役に立つはず。一度切ったとしても、また長くのばすことができる」。

こうした思いが頭の中をめぐって決心することができました。お母さんに、

「無理しなくてもいいんだよ。」

と言われましたが、私は決心していたので、

「大丈夫だよ。私はヘアドネーションする。」

と答えました。近所の美容室にヘアドネーションのかん板があったので、ここでお願いすることにしました。それから私は毎日シャンプーとトリートメント、ブラッシングを丁ねいに自分でやるようにしました。当日の朝は、少し早く目がさめました。お母さんの顔もいつもよりきん張しているように見えました。きっとお母さんは、毎朝、私の髪を丁ねいにしばってくれていたから、お母さんの気持ちも本当は、ふくざつだったのではないかと思いました。美容室に行くと、優しい笑顔のおかみさんが私たちをむかえてくれました。いすに座って、ケープをかけてもらうと、またドキドキしました。おかみさんがはさみを持って最初に毛先の十センチのところをゴムで束ねて切って、お母さんに渡してくれました。次に髪の毛を四つの束に分けて小さいゴムで束ねて、定規で測って三十五センチプラス一センチのところで、

「チョキン。」

と音がして鏡に映った私の髪の毛は肩の辺りまで短くなっていました。

私は、この夏初めてのヘアドネーションを経験できて良かったです。ヘアドネーションから一カ月ほどたってから、額に入った感謝状を頂きました。私の髪の毛で喜んでくれている人のところに届いたんだなぁと思ったら心がポカポカしてきました。嬉しかったです。